

Chiba Tech News

No_706

2026年5月号

千葉工業大学 入試広報部

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号

TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344



学生の手から生まれる半導体



CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

未来への扉を持つ箱 クリーンルーム 始動

[CONTENT]

【P2】建学の精神「世界文化に技術で貢献する」を、クリーンルームの学びへ

【P3】研究成果が米国化学会 (ACS) 専門誌の表紙に掲載 研究成果の現場にも息づく建学の精神

【P4】第31回「文化の祭典」実行委員長インタビュー／局所的な電気化学反応

とラマン分光情報の同時計測が可能なオペランド顕微鏡の開発に成功／春のオープンキャンパスに2,124人来場

【P5】令和7年度「ベストティーチャー賞」「後期グッドレクチャー賞」の受賞者を発表／古志さん「優秀口頭発表賞」／河端さん「学生奨励賞」／平田さん

「学生奨励賞」／劉さん「学生奨励賞」／金田教授「優秀賞」／鈴木上席研究員「優秀賞」／瀧野教授「優秀研究ポスター賞」／樋口助教「理研桜舞賞」／常田所長「第8回JTS学術賞」／柏倉警備主任「瑞宝単光章」／「いっそ、AIを総理に。」ブランディン

グ広告が作品賞を受賞
【P6】就職・進路支援便り／1万2千年前の巨石文化に迫る公開講座を開催／「さくらまつり」でよさこいが演舞／令和8年度予算案を承認
【P7-8】新任紹介／デジタル版移行についてのお知らせ

建学の精神「世界文化に技術で貢献する」を、 クリーンルームの学びへ

師弟で開く、未来への扉 宇宙・半導体工学科でクリーンルーム実験が本格始動

「失敗できる教育」が、
学生の挑戦を未来につなぐ

建学の精神「世界文化に技術で貢献する」。その精神を、小さな半導体デバイスへとつなぐ学びが、千葉工業大学宇宙・半導体工学科で動き出している。そのクリーンルーム実験は、本学の教育目標にある「してい どうぎょう してい きょうせい師弟同行、師弟共生」を具



エアシャワーの先に
クリーンルームがある

体的な形にした場でもある。

クリーンスーツに身を包んだ学生たちは、フォトリソグラフィと呼ばれる微細加工技術を用い、光に反応する半導体デバイスの作製に挑戦した。半導体はスマホから人工衛星やAIまで現代社会を支える「すが頭脳」だ。しかし、繊細な構造ゆえ、製造はわずかなホコリも許されない。空気中のチリま



試料を丁寧に扱う学生。微細加工には
集中力と慎重な作業が求められる

で管理されたクリーンルームは、未来のものづくりを支える特別な空間である。

菅教授は、「クリーンルームは、単なる設備ではなく、『未来への扉を持つ箱』だと思っています。学生たちが大学時代に自分の手で半導体を作り、確かめることができる環境が整備されたことを、大変嬉しく思っています」と話す。

実験初日、学生たちは約四時間、ほとんど休まず装置に向き合った。五マイクロメートルという髪の毛よりはるかに細い構造がきれいに現れた瞬間、歓声が上がったという。「学生たちが『できた』『面白い』と目を輝かせていた姿を見た時は、本当に導入いただいて良かったと感じました。教科書で見ていた世界が、本当に現実に存在していると実感できるからです」。



黄色照明の中、半導体デバイス作製の
工程に取り組む

教授が大切にするのは「失敗できる教育環境」である。思うように加工できない日も、原因を考え、条件を変え、もう一度試す。教員が寄り添い、学生が自ら手を動かす。その積み重ねが「師弟同行、師弟共生」の学びであり、学生を技術者へ育てていく。

未来への扉のその先へ ～高月輝さん修士2年の挑戦～

シャーペンを直した少年が、
見えない半導体の世界へ

その学びの先にいる学生の一人が、菅研究室でナノ構造半導体の研究に取り組む高月輝さんである。幼いころから、ものの仕組みを知ることが大好きだった。シャーペンやボールペンを分解し、中学生のころには友人の壊れたシャーペンを直していた。

「クラス中のシャーペンが壊れると、自分が直していました。構造がどうなっているのか、なぜここが動くのかを自分で気づくことが楽しかったんです」

大学二年生の終わり、高月さんは研究室配属を待たず、菅研究室を訪ねた。そこで出

会ったのが、グラフェンやフラーレンというナノ材料の世界だった。小さな分子が、未来のメモリーにつながる壮大な可能性を持つと知り、心が動いた。「目に見えない、ちっちゃいところで、そんな制御がなされているんだと本当に驚きました。知らない世界だったので、ここに飛び込んでみたい。この研究室しかないと思いました」。

シャーペンの中をのぞき込んでいた好奇心は、ナノメートルの世界へ向かった。初めての装置に不安もあった。それでも一つ発見があると、また新しい疑問が生まれる。「これを知ったら、もっと知らないことが増えてくる。枝分かれのようで、本当に終わりが無いと思います」。

高月さんは、教授の支えも強く感じている。「面倒見がいい先生です。困った時には、こうしたらいんじゃないかとアドバイスをくださいます」。師のまなざしと学生の挑戦が重なり、学びは研究へ、研究は未来へとつながっていく。高月さんは将来、日本の半導体に関わりたいという思いを抱いている。「日本をもう一度、上昇させたいという思いがあります」。

宇宙・半導体工学科の教授らは若者たちへ語る。「工学は未来を作る学問です。宇宙も半導体も、遠い世界ではありません。自分の手で未来を形にできる、その入口が大学にはあります」。世界文化に技術で貢献するために、まず自分の手で作

り、失敗し、また挑む。クリーンルームという未来への扉を開いた先で、師と学生はともに歩み始めている。小さな世界を見つめるまなざしが、やがて社会を動かす大きな力になる。



菅研究室でナノ構造半導体の研究に
取り組む高月輝さん

研究成果が米国化学会(ACS)専門誌の表紙に5月15日付掲載! 研究成果の現場にも息づく建学の精神 ～研究の先にあるもの 人がつなぐ知と時間～

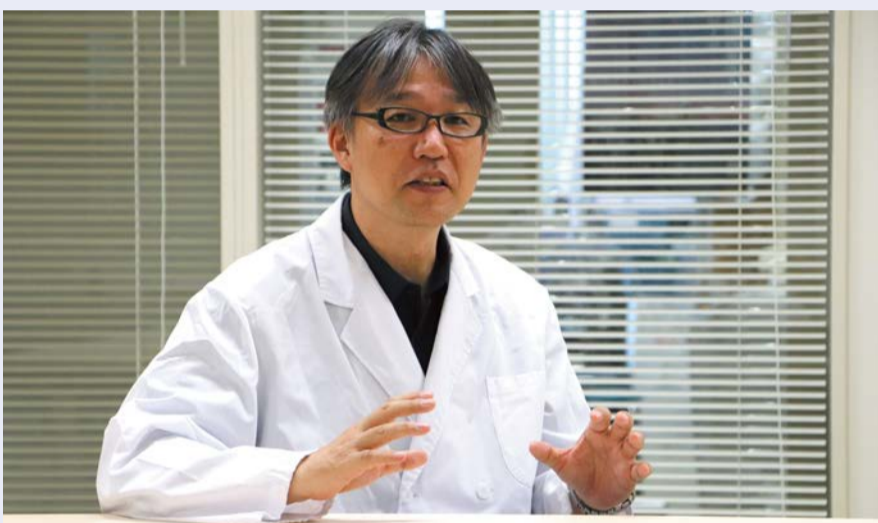
学生の努力、共同研究者との信頼、
卒業生の歩みが結んだ成果

化学生物学分野で国際的に評価される、米国化学会(ACS)発行の専門誌の表紙に、共同責任著者である先進工学部生命科学科・坂本泰一教授、山岸賢司教授らの研究成果が取り上げられた。この成果の背景には、研究室で実験を重ねた学生、十年以上にわたり支えた共同研究者、そして現在も研究の道を歩む卒業生の姿がある。三人の言葉から、研究が形になるまでの時間をたどる。

ACS Chemical Biologyは、米国化学会(American Chemical Society)が発行する、細胞機能やタンパク質・核酸などを分子レベルで扱う研究が掲載対象。右の表紙は、本研究の核となるキメラアプタマーがRNAアプタマーより柔軟でタンパク質に適合することを示す図



INTERVIEW 01



共同研究の中心となった坂本泰一教授

学生とともに積み重ねた時間 坂本泰一教授

今回の快挙について坂本教授に何うと、真っ先に語られた

共同研究の中心となった坂本泰一教授は学生の存在だった。「自分のことというよりも、研究室の学生たちの顔が思い浮かびました」
思うような結果が出ず、同じ

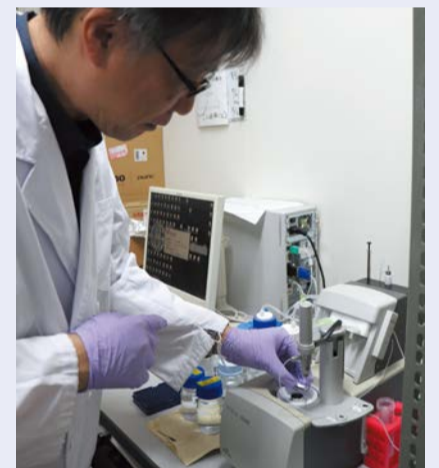
実験を何度も繰り返す日々。データが安定しない中でも、学生たちは黙々と手を動かし続けたという。

「この成果は私一人のものではありません。学生たちや共同研究者の先生方と過ごした時間そのものが形になったのだと思います」

坂本教授の原点は、高校時代に抱いた「なぜ病気は起こるのか」という問いだった。今回得られたのは、DNAとRNAのキメラアプタマーが従来のRNAアプタマーより柔軟で、タンパク質により適合するという結果。当初は「そんなはずがない」との疑問の声もあったが、学生たちは実験と検証を重ねた。

「もし途中で諦めていたら、この結果は世の中に出ていなかったと思います」

教育では、学生が安心して失敗できる環境を守ることを大切にしている。



実験装置を前に、研究現場で作業する坂本教授

INTERVIEW 02

出会いから続く研究 山岸賢司教授

共同研究者の山岸賢司教授にとって、始まりは坂本教授のたった一回の地方講義への出席だった。分子シミュレーションを専門とする山岸教授は、「自分の技術を重ねれば新しい研究ができるのではないか」と直

感し、講義後に駆け寄った。その日の夜には、坂本教授からすぐにデータが届いた。誠実さと行動の速さに触れ、「この方と一緒に研究したい」と感じたという。
離れた場所での研究は十年以上続いた。頻りに連絡を取らなくても、お互いの立場を理解し、「急がず進める」姿勢を

共有できたことが継続につながった。そして本年4月本学へ入職、文字通りの共同研究者となった。

山岸教授は、研究の中心には学生がいると語る。

「研究は一人では成り立たず、その積み重ねの先に成果があります」と。



分子シミュレーションの結果を示す山岸賢司教授

INTERVIEW 03

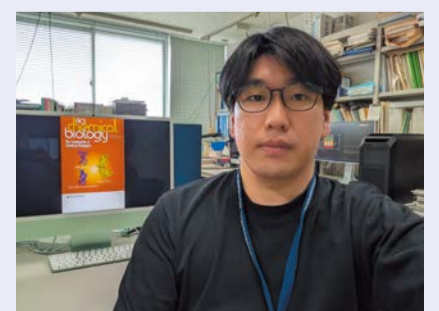
失敗の積み重ねが導いたもの 坂本研究室卒・長谷川拓矢氏 (現 国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所)

長谷川拓矢氏は現在、国立感染症研究所で研究に携わっている。高校時代に経験したアレルギーをきっかけに免疫に興味を持ち、本学へ進学した。入

学後、結果として坂本研究室に所属したことが、今につながっているという。
任されたテーマは、先輩から引き継いだものだった。実験条件の見直しが必要で、データが得られるまでに二年以上を要した。温度や保存方法、測定タイミング、溶液条件などを一つずつ見直し、検証を重ねた。

長谷川氏は「失敗は、うまくいかない方法が分かったということ」と捉えた。何度も確認し、坂本教授と議論を重ね、ようやく成果として実感できた。

在学生や受験生には、「自分の興味のあることに夢中になって取り組むことが大切だと思います」とメッセージを送った。



専門誌表紙に掲載された研究成果を前にする長谷川拓矢氏

第31回「文化の祭典」に3,717人来場、参加44団体 実行委員長インタビュー [先進工学部生命科学科・穴山詩織さん(4年)]



ご来場の皆様への御礼

5月10日(日)、葉桜薫る津田沼キャンパスは、年に一度の祭典を楽しみに、開門から

多くの来場者が、文化の祭典と飾られた正門を通り、文科系参加団体の学生たちに歓迎された。

まず千葉工大について「授業のレベルが高く、やりたいことに挑戦できる環境がある」と魅力を語りはじめたのが印象的だった。そして、実行委員長には周囲の後押しで就任

し、準備では多くの苦労があったが、天候にも恵まれ、トークショーや飲食企画も盛況となり、「内外から多くの来場者を迎えることができ、やってよかったと感じている」と手応えを語った。

最後に「来年も同時期に開



快晴のもと来場者が続々

催予定なので、卒業生や地域の方々を含め、多くの方に足を運んでほしい」と来場を呼びかけた。

局所的な電気化学反応とラマン分光情報の 同時計測が可能なオペランド顕微鏡の開発に成功

電気電子工学科の熊谷明哉教授と、大学院電気電子工学専攻 修士1年の立崎瑛太さん、石毛亮乃介さんらの研究グループは、ナノスケールに絞った電気化学反応と物質の構造変化を同時に観察できる新しい顕微鏡の開発に成功した。本研究は、リチウムイオン電池の長寿命化などに関わる重要な仕組みの理解を進める成果として注目されている。

リチウムイオン電池では、電極と電解液が接する「固液界面」で起こる反応メカニズムの理解が性能や寿命を左右する。しかし、これまではその反応領域をナノスケールなどのマイクロに絞り、反応させ続けながら同時に材料の状態変化を調べることが難しいという課題があった。

今回、研究グループは、1リットル(l)の10のマイナス15乗の液滴であるフェムト l の電解液を使ってその場で起こる電気化学反応を測定する技術と、レーザー光を用いて物質の構造を調べるラマン分光法の計測位置を精密に制御・一致させることで、この課題を克服した。これにより、ごく小さな領域で起こるリチウムイオンの出入りと、それに伴う構造の変化を同時に捉えることが可能となった。

実験では、電池材料として使われるリン酸鉄リチウムを対象に、充放電に伴う反応の様子を観測し、局所的な変化を明確に確認することに成功した。この手法により、これまで見えにくかった反応のムラや劣化の原因解明が進むと期待される。

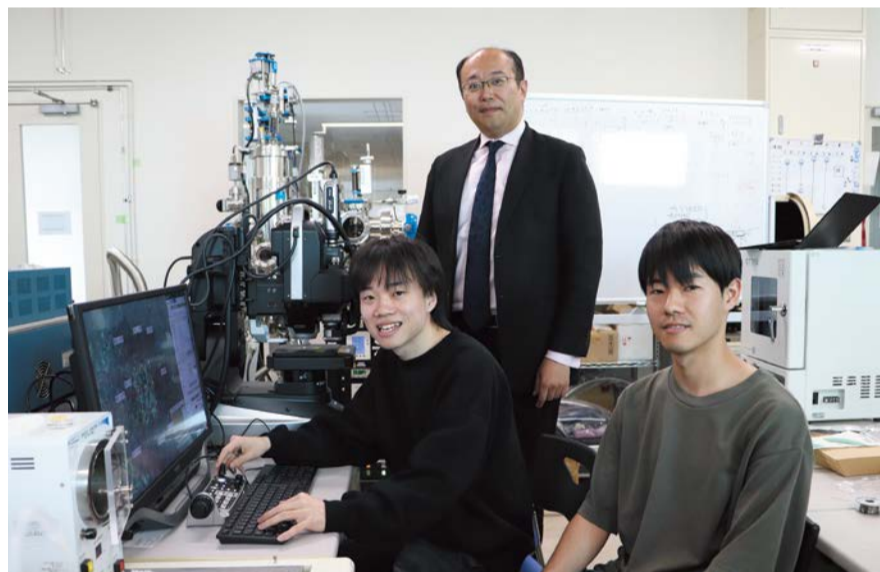
本成果は、より高性能で長寿命な電池の開発に役立つだけでなく、触媒や腐食など幅広い分野への応用も期待される。

なお、本研究成果は4月21日(火)に米国物理学会の学

術誌「Applied Physics Letters」に掲載され、注目論文(Featured Article)に選出された。さらに、アメリカ物理学会が紹介する特に優れた研究「Scilight」にも取り上げられている。



プレスリリース全文は
本学ウェブサイトから



研究室にて。左から立崎さん、熊谷教授、石毛さん

春のオープンキャンパスに2,124人来場



受付で受験生を出迎えるチバニー

令和7(2025)年度最後のオープンキャンパスが、3月28日(土)に津田沼キャンパスで開

催され、前回を超える2,124人が来場した。メイン企画のひとつ「CHIBA TECHまるわかり講

座」では、本学ならではの学びの特徴や最新の研究・教育トピックを紹介し、来場した受験生や保護者らは熱心に耳を傾けていた。

各学科の説明会ブースでは、学びの内容や研究紹介に加え、学び体験コーナーや展示を実施。学生スタッフが来場者に丁寧に説明を行い、会場は終日活気に包まれ、終始にぎやかな雰囲気。また、進学相談コーナーでは、奨学金制度や就職状況に関するミニ講演も行われ、多くの保護者が足を止めて聞き入っていた。

来場者からは、「大学の雰囲気を実際に感じる事ができた」「学生の話がとても参考になった」といった声が寄せられ、本学への理解を深める機会となった。



大盛況の学部学科全体説明会

令和7(2025)年度「ベストティーチャー賞」「後期グッドレクチャー賞」の受賞者を発表 学生アンケート等を基に、優れた教育活動・授業を表彰



5月7日(木)、「ベストティーチャー賞」および「後期グッドレクチャー賞」の受賞者を表彰した。ベストティーチャー賞には、教育センター(未来変革

科学部)の木島愛教授が、後期グッドレクチャー賞には、各学科および教育センターから多数の教員が選出された。

令和7(2025)年度 ベスト・ティーチャー賞

[教育センター(未来変革科学部)]木島 愛 教授

令和7(2025)年度 後期グッドレクチャー賞

[機械工学科]熱海 武憲 教授/[宇宙・半導体工学科]中山 昇 准教授/[先端材料工学科]小山 和也 教授/[都市環境工学科]橋本 紳一郎 教授/[未来ロボティクス学科]大川 茂樹 教授/[生命科学科]成田 隆明 准教授/[デジタル変革科学科]田隈 広紀 教授・高木 徹 助教/[経営デザイン科学科]下村 道夫教授・関 研一 教授/[教育センター(工学部)]植本 昌信 教授・横山 利章 教授・重 歩美 助教・村上 陽香 助教・大久保 寛之 非常勤講師・森林 駿介 非常勤講師/[教育センター(創造工学部)]東山 幸司 教授/[教育センター(先進工学部)]渡邊 努 教授/[教育センター(情報変革科学部)]安武 伸俊 教授・K.R.ジョンソン 助教/[教育センター(未来変革科学部)]木島 愛 教授・中村 達 准教授・高松 佑介 助教/[教育センター(社会システム科学部)]井口 祐介 非常勤講師

第5回
ホテル融合
若手研究会
「優秀口頭
発表賞」

人工発光基質アカルミネの
励起状態緩和過程に関する
理論的解析

こし はなえ
古志 華絵 さん

応用化学専攻修士1年
山本典史研究室

受賞日
2026/3/6

詳細は
コチラ

一般社団法人
情報処理学会
第88回全国大会
「学生
奨励賞」

画風変換によるデータ拡張を
用いた物体検出に関する研究

かわばた てつし
河端 徹思 さん

未来ロボティクス専攻修士1年
大川茂樹研究室

受賞日
2026/3/6

詳細は
コチラ

一般社団法人
情報処理学会
第88回全国大会
「学生
奨励賞」

エッジ検出を用いた
データ拡張に基づく物体検出

ひらた よしたか
平田 祥隆 さん

未来ロボティクス学科4年
大川茂樹研究室

受賞日
2026/3/8

詳細は
コチラ

一般社団法人
情報処理学会
第88回全国大会
「学生
奨励賞」

静的解析とPolicy as Codeに基づく
継続的なネットワークセキュリティ
コンプライアンス検証フレームワークの研究

リュウ リージン
劉 力菁 さん

マネジメント工学専攻修士1年
小笠原秀研究室

受賞日
2026/3/8

詳細は
コチラ

一般財団法人日本健康開発財団
第51回(令和7年度)
助成研究成果発表会「優秀賞」

かねだ こういち
金田 晃一 教授

先進工学部・教育センター

受賞日
2026
3/13

詳細は
コチラ

第31回
ロボティクスシンポジア
「優秀賞」

すずきたるう
鈴木 太郎 上席研究員(教授)

先進工学部・未来ロボティクス学科※

受賞日
2026
3/17

詳細は
コチラ

精密工学会
2026年度 春季大会
「優秀研究ポスター賞」

たきの ひでお
瀧野 日出雄 教授

工学部・機械工学科

受賞日
2026
3/19

詳細は
コチラ

理化学研究所
2025年度
「理研桜舞賞」

ひぐち ようこ
樋口 洋子 助教

情報変革科学部・認知情報科学科

受賞日
2026
3/31

詳細は
コチラ

ジャパントレジャー・サミット
「第8回JTS学術賞」

つねた さく
常田 佐久 所長

天文学研究センター

受賞日
2026
4/21

詳細は
コチラ

※前未来ロボット技術研究センター

第46回
危険業務従事者叙勲
「瑞宝単光章」

かしわくら かつみ
柏倉 克巳 警備主任

総務部

受賞日
2026
4/29

詳細は
コチラ

「いっそ、AIを総理に。」ブランディング広告が作品賞を受賞

昨年、全国紙に掲載した広告が、毎日新聞社主催、経済産業省後援の毎日広告デザイン賞において作品賞を受賞し、4月13日(月)に東京都文京区のホテル椿山荘東京にて表彰式が行われた。

受賞した新聞広告は、「いっそ、AIを総理に。」というキャッチコピーで、昨年11月27日(木)に毎日、朝日、読売、日経、産経新聞などに掲載された15段カラー広告。昨年に続き渡辺潤平社が制作を手がけ、社会に対して強い問いを投げかける新聞広告として注目を集めた。

人間の判断の揺らぎや限界を踏まえつつ、科学技術、とりわけAIの力によってより良い未来を切り拓く可能性を示唆し、現代社会における意思決定やリーダーシップの在り方に一石を投じる内容となっている(掲載紙面参照)。



就職・進路支援便り

4年生・修士2年生向け支援

3月に企業の広報活動が解禁され、積極的に活動している方もいると思います。就職活動を継続している、思うように動いていない方は、引き続き多くの求人が寄せられていますので、就職・進路支援部に気軽にご相談ください。また、メール配信等でお知らせする学内企業説明会や学内個別企業説明会に注目し、積極的に参加してください。5月28日には「合同企業説明会」を実施します。千葉工大生積極採用の企業が集まるため、例年内定に繋がる先輩が多く出ています。今後も学内でイベント等を実施する際は、メール配信等でお知らせします。その他、就職システムからの個別面談予約や、当日の相談枠も活用してください。

3年生・修士1年生向け支援

夏以降にインターンシップや企業イベントへの参加を検討している方を含め、近い将来やってくる就職活動に向け、しっかりと準備を進めていきましょう。企業イベントに参加する際に役立つ、インターンシップ関連講座がスタートしていますので、積極的に参加してください。詳細は、メール配信等でお知らせしています。日程の追加はありませんので、計画的に参加を検討してください。予約は先着順です。

また、先月号でお伝えしました「モノづくり業界 まるわかりイベント(6/20)」を実施します。夏以降にインターンシップ参加を検討している、就職活動に向けて企業情報を知りたい方は学年問わず参加してください。学生の皆さんが、業界や企業について企業の担当者から個社や業界に関する情報提供・PRなどをの話を直接話を聞ける、貴重な機会です。大手有名企業も多数参加予定ですので、積極的に参加しましょう。詳細は、メール配信等でお知らせいたします。

インターンシップ関連講座(5~7月開催分)

講座名	日程	内容等
インターンシップ準備講座 ※4月~開講済	5/28(木) 6/4(木) 6/11(木) 6/20(土)	より重要度が増しているインターンシップの実態や活用方法、採用担当者のチェックポイントなども含めて、今後の就職活動に必要な準備についてお伝えします。実際に参加する“行動”にうつせることを目標として進めます。 「国内インターン」単位取得希望者は受講必須
インターンシップ直前マナー講座	6/26(金) 7/2(木) 7/11(土)	ビジネスの際の基本行動や、職場におけるコミュニケーション、スーツの着こなしなどについてお伝えします。 「国内インターン」単位取得希望者は受講必須
自己分析・ESブラッシュアップ講座 ※4月~開講済	5/30(土)	就職活動において重要な「自己分析」「エントリーシート作成」について、他者に“伝わる”ポイントをお伝えします。
対象：学部3年生、修士1年生		予約：就職システムの支援行事予約

★全て学内での対面実施。場所・時間等の詳細は、就職システム及びメール配信をご確認ください
★服装自由/マナー講座のみスーツ着用推奨(上着不要)

モノづくり業界 まるわかりイベント

日程	参加予定企業の一部
6/20(土) 第一部	NXエンジニアリング/ドコモCS/DTS/ニフコ/ミツバ/明治安田システム・テクノロジー/NTTインフラネット/クボタ環境エンジニアリング/日立プラントメカニクス/日本デジタル研究所 他
6/20(土) 第二部	トピー工業/しのはらプレスサービス/三和シャッター工業/トヨタ自動車東日本/朋栄/DTSインサイト/シチズン・システムズ/直江津電子工業/小田急ビルサービス 他
6/20(土) 第三部	日本製紙クレシア/東京精密/セイコーインスツル/東京都住宅供給公社/文化シャッター/富士電機E&C/NTTアドバンステクノロジー/池上通信機/ユニプレス/古河電池 他
予約：就職システムの支援行事予約	

★津田沼校舎、対面実施。実施場所・時間等の詳細は、決まり次第就職システム掲載およびメール配信いたします ★服装自由

1万2千年前の巨石文化に迫る公開講座を開催
ハルベトスワン・テペシ遺跡の発掘調査成果を報告

地球学研究センターは3月29日(日)、公開講座「1万2千年前の巨石文化を掘る：ハルベトスワン・テペシ遺跡、発掘調査成果」を東京スカイツリータウン®キャンパスで開催した。

同講座は、2022年から調査を進める南東トルコの先

土器新石器時代遺跡「ハルベトスワン・テペシ」の研究成果を紹介するもの。当日は約70人が参加し、本年度は半日かけた複数講演形式で実施。本学研究員や共同研究者が、遺跡構造や年代、地中探査、黒曜石分析、人骨など多角的な視点から

成果を紹介した。

本学からは、下釜和也、多田賢弘、森脇涼太、キューチュックアルスラン・ヌルジャンの各研究員に加え、4月より副所長に就任した西秋良宏氏が登壇した。質疑応答では多くの質



地球学公開講座の様子

問が寄せられ、現地調査の進行を反映した「生」の発掘報告として関心を集めた。

「さくらまつり」でよさこいが演舞

習志野市秋津の障害者福祉施設「花の実園」で4月4日(土)・5日(日)に開催された「さくらまつり」で、体育会所属の「よさこいソーラン風神

部」が演舞を披露。

来場者の歓声や手拍子で会場は盛り上がり、「うらじゃ」では観客も加わって踊る場面も見られた。伊藤凜

さん(第21代主将/情報変革科学部高度応用情報科学科3年)は、「地域の方々が温かく迎えてくださり、一緒に踊っていただけたことがとても印象的だった」と振り返った。



さくらまつりでの演舞の様子

令和8年度予算案を承認

3月25日(水)、東京ガーデンパレスで開かれた理事会・評議員会で、令和8年度予算案が承認された。事業計画、予算の概要については、本学webサイトに全文を公開している。

事業計画について



令和8年度予算案について



新任紹介

着任の感想や抱負を語っていただきました

教員



すずき たかまる
鈴木 尊丸
准教授

機械工学科

歴史と先進性を兼ね備えた活気に満ちた環境です。実践的ものづくり教育とロボット・加工研究を推進し、人材育成と技術創出に取り組んでまいります。



ほそぶち はやと
細淵 勇人
教授

建築学科

皆さん親切です。研究・教育に邁進します。研究分野は、建築環境・建築気象。趣味はクワガタ採集。



むらた りょうま
村田 龍馬
教授

建築学科

建築の楽しさを学生に伝え、人とのつながりを広げながら優れた作品づくりをめざします。趣味は建築鑑賞。



いけや てっぺい
池谷 鉄兵
教授

生命科学科

都心近くの立地にもかかわらず、ゆとりがあり気持ちが良いです。研究と学びの中で、学生とともにわくわくする体験をしていきたいです。



やまぎし けんじ
山岸 賢司
教授

生命科学科

デジタル化が進んでいることが印象的です。教育と研究の両面に尽力したいと考えています。研究分野はバイオインフォマティクス。



しゅ ほく
朱 博
准教授

生命科学科

チームワークを重んじる活気ある環境で、学生も真面目で活発な印象です。多彩なスクリーニング技術を軸に教育研究を築き、バイオ分野に貢献したいです。



しらき しの
白木 詩乃
助教

情報工学科

教員・職員同士の距離が近く、密に連携してお仕事をされている印象です。常に新しいことに挑戦しながら、ますます教育・研究を発展させていきたいです。



やました かずひこ
山下 和彦
教授

高度応用情報科学科

研究、教育、社会活動の3本柱を多くの先生方、学生の皆さんと協力しながら進めていきたいです！たくさんディスカッションしましょう。



きむら だい
木村 大
助教

デジタル
変革科学科

最先端と伝統が融合したキャンパスが印象的。多様化・複雑化する変化の激しい社会に学生と挑戦したいです。



なかがわ あきお
中川 彬雄
助教

教育センター
数学教室

親切的な教職員が多い印象です。教育および研究を頑張ります！研究テーマは、数論幾何。趣味は散歩。



ときもと かずき
時本 一樹
助教

教育センター
数学教室

真面目に授業に取り組み、授業前後に挨拶をしてくれる学生が多いです。研究・教育両面で精進し、少しでも大学に貢献できるように努めてまいります。



カ タ リ ナ マ ラ ケ
Catharina Maracke
教授

デザイン&
サイエンス専攻

I hope to contribute to a future where technology is guided by innovation, ethics, and global collaboration, while supporting the next generation at ChibaTech.



おがき ひろみ
尾崎 優美
教授

デザイン&
サイエンス専攻

テクノロジーやデザインを武器に、学生のみなさんが新しい挑戦へ踏み出し、自ら未来を切り拓いていけるような環境づくりに力を注いでいきたいと思ひます。



こじま ひろき
小島 大樹
准教授

デザイン&
サイエンス専攻

始まったばかりでこれからのところが多いですが、何かが生まれそうなわくわく感があります。自身の研究、授業だけでなくさまざまな人とコラボレーションしたいです。



キム ダウミ
Kim Daum
助教

デザイン&
サイエンス専攻

一つの大きなファミリーのようだと感じています！グローバルなネットワークと若い世代のエネルギーを持ち込み、日本で最も変革的で実験的な大学の一つへと発展させていきたいです。

新任紹介

着任の感想や抱負を語っていただきました

研究員



はらだ てつろう
原田 徹郎
研究員

惑星探査
研究センター

5年間衛星開発に携わる中で、教職員が学生の将来と大学発展のために尽力し支援してくださりました。衛星開発に関わりたい学生、宇宙で実験したい先生方、どの学科でも受け入れております。



くろだ れいこ
黒田 玲子
主席研究員

変革センター

異分野の先生方との議論が自然に生まれる雰囲気があり、融合研究の広がりを感じています。最先端の研究を皆さんとともに発展させていきたいです。



にしあき よしひろ
西秋 良宏
副所長

地球学
研究センター

数百万年前から続くヒトと地球の付き合いを学際的手法によって調査し、地球学の発展に貢献していきます。



ケサンワンモ
Kesang Wangmo
主任研究員

変革センター

It is a fast-paced, collaborative environment where I hope to learn new technologies and continue growing.



なかむら ひろこ
中村 裕子
事務職員

教学センター
津田沼学生担当

窓口に来る学生さんが、少しでも楽しく学生生活を送れるように『笑顔で挨拶!』をモットーに、親しみやすい雰囲気づくりから頑張ります。



あいの なおと
相野 七音
事務職員

教学センター
津田沼教務担当

助け合いの精神がすごくあると感じています。皆さんのようにお仕事をこなせるよう、たくさん業務を経験し大学に貢献していきます。



いとう たかし
伊藤 剛嗣
グループ長補佐

就職・進路支援部

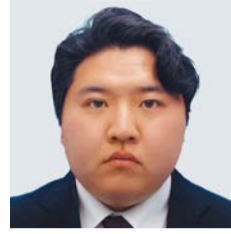
学生の将来に深く関わる責任ある仕事でありながら、温かい雰囲気の中で支援が行われていると感じました。就職支援に関する知識を深め、学生一人ひとりに寄り添った支援ができるよう努めてまいります。



さとう まこと
佐藤 誠
警備員

総務部

優しい上司、先輩に囲まれてとても良い勤務環境で仕事に励んでいます。早く勤務環境に慣れ、千葉工大の職員として日々精進していきたいと思っています。



なかむら たいち
中村 太一
事務職員

入試広報部

わからないことや疑問に思ったことなんでも相談に乗ってくれます。社会人1年目ですが任された仕事以外にも自分ができそうなことには挑戦していこうと思います。



ねぎし のぶゆき
根岸 信幸
警備員

新習志野学生担当

一人で対処・対応することが求められる職場です。体力、責任感、冷静な判断力、注意力、コミュニケーション能力、安全意識などを欠かすことなく笑顔で仕事に励みます。

Chiba Tech News ご愛読の皆様へ

～デジタル版移行についてのお知らせ～ 入試広報部

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、千葉工業大学の諸活動へご理解とご協力を賜りますこと、心より御礼申し上げます。

さて、昨今の社会経済情勢やDX化の潮流に合わせて、Chiba Tech Newsも改めまして全面デジタル化へ

今号(No,706・2026年5月号)より歩みを進めさせていただきたいと存じます。

つきましては、**学生・保護者・卒業生・教職員の皆様におかれましては今号より、**

CITポータルおよび同窓会HPを通じて配信するデジタル版をご覧くださいませようお願い申し上げます。

謹白

今後も冊子での送付をご希望される場合は、右記のいずれかの方法にて、入試広報部までお申込みいただけますようお願い申し上げます。

千葉工業大学 入試広報部

- ①電話:047-478-0222
- ②メール:cit@chibatech.ac.jp
- ③QRコード

※送付先のお名前・ご住所とご子女のお名前・学籍番号をお知らせ下さい。



これからもChiba Tech Newsをご愛顧いただけますよう宜しくお願い申し上げます。